

平成23年度 浜松工業会浜松支部総会 記念講演

演題 「エンジニアから精神世界へ ～尺八の魅力～」

講師 直簫流（じきしょうりゅう）尺八宗家 田嶋直士氏

平成23年 5月21日（土） 16:15-17:45

於 グランドホテル浜松 鳳東の間

【略歴】 1969年 静岡大学工学部機械工学科大学院を卒業。同年空調設備会社に入社
1974年空調設備会社退社、尺八演奏家を志す。現在、日本を代表する国際的尺八演奏家。
直簫流を創設し、宗家となる。大阪音楽大学で教鞭。世界17ヶ国で公演。エディンバラ国際
音楽祭の他、世界の音楽祭より招待を受ける。2011年はドイツ、イタリア、フランスで公演の
予定。

【表彰】 1990年 2007年 文化庁芸術祭賞受賞。パンムジークフェスティバル邦楽演奏コ
ンクール1位・大賞・ドイツ大使賞受賞 など

支部総会に続いて開催された記念講演会。今回は講師である田嶋先生より双方向の会話形式での講演とさせていただきたいとの希望により、そのお相手として田嶋先生と同じ講座で後輩である、ミクムス研究所代表 村上和男氏(43M)と浜松工業会浜松支部副支部長の竹内栄治氏(47E)が務め、村上氏は音楽の専門家という立場で、竹内氏は素人の立場で田嶋先生への質問が出され、その質問を通して田嶋先生の考えなどを話していただきました。冒頭で東日本大震災の鎮魂の曲の演奏があり、その音の魅力に約300人の聴衆は否が応でも田嶋先生の世界に引き込まれ、ユーモアを交えたお話と合わせ会場は大いに盛り上がった。

T：田嶋先生、E：竹内氏、M：村上氏、
S：松山前副支部長（司会）を示します。

== <演奏 東日本大震災の鎮魂の曲（3曲）> ==
打破の曲／鶴の巢籠もり／虚空

1. 音楽と東日本大震災、音楽が持つ大きな力

E. 最初に3曲続けて今回の東日本大震災に対するレクイエムということで聞かせていただきました。この音楽と被災された人達を鼓舞するとか、励ますとか、そういう関係につきまして何かお話をしていただければと思います。

T. 最初に尺八を始めた頃は自分のやりたいことをやりたいようにやるということで、あまり人のことを考えていなく、無理やりに聞いてもらうという感じでした。しかしながら、いろいろところで演奏する中で音楽が非常に大きな力を持っているという場面に出くわすことが多く、私の演奏を聴いて命が助かったとか、そんなことをおっしゃる方があったり、いろいろな

ました。私は、最初は理工系で工学部ですから、物を作る、生産する形、それこそが世の中の役に立つのだという浅い考えでいました。音楽のように生産しない形はなんとなく後ろめたさを感じていました。けれども、いろいろな世界中の現象を見てみますと、アフリカから連れてこられた黒人の奴隷が、黒人霊歌というもので極限の状態の中でも力をもらえた、そんな話を聞きますと、音楽も大きな力を生むのかなと思っています。

ただ今演奏した曲は、最初の曲が“打破の曲”、打破する、突き破る、これは困難に遭遇した時に祈りの気持ちを持って、それを乗り越えたいと願う曲です。2番目の“鶴の巢籠もり”、これは母親が自分の子供を育てていく中で、餌が見つからなくて、子供が今にも死にそうになった時に、思いつめて、自分の身を裂いて子供に与えて、そして子供はそれを食べて命を永らえ、母親は命が終わって、子供はそれを乗り越えて巣立っていく。それを食べる時には

子供は食べ物をもらえたということで、生きていく意味、生きることのつらさとか、宿命とかは分からないわけです。でもそういうもの乗り越えてでも生き抜いていかなければならない、そんなことを教えているのがこの曲です。3番目の「虚空」は、虚という字と空という字を書いて、どちらの字も何もないという意味ですけども、その中には全てが含まれる、空即是色とか、仏、宇宙、神、真実とか、そういう究極の一字に表すようなことがあります、それほどの意味と言われており、この曲は尺八の世界にとっては最も大事な曲です。

2. 直簫流と精神性

M : ただ今の演奏を聞かせていただいて精神性ということを感じました。先生の場合、直簫流の宗家として新しく流派を起こされていることから、先生の描く心で見る世界というところの表現といいますか、演奏性ということにつきまして、何か曲を交えながらご紹介していただけたらと思います。

T : なかなか難しい質問ですね。日本の伝統的なものには流派というものがあまして、お茶の世界でも、お花でも、踊りでも、尺八にも当然あります。都山流（とざんりゅう）、これが一番人口が多い流派です。古い流派として琴古流（きんこりゅう）があり、一番古い流派が明暗流（みょうあんりゅう）です。流派というのはなかなか便利なところがありまして、例えば医者資格を取るとか、あるいは弁護士資格を取るとか、それぞれ難しい試験がありますが、尺八は違います。「今日から私は宗家です」と言えばすぐに宗家になれます。流派とはそういう風にいかにげんなりなものです。それぞれの流派には売りがあり、こういうことをしてはいけません、こうしなければいけません、というのがあり、それが特徴になっています。私は好きで尺八を始めましたので、これをやってはいけないうんて言われると非常に不愉快になります。尺八で出来ることはなんでもやりますというのが私の考えで、自分流というか、自己流というか、それが直簫流です。それで流派を作るんだったらいかめしい名前にしようと、直は私の名前の文字を使って、簫というのは中国の縦笛のことで、歴史的に由緒のある名前なんです。こ

れをちゃっかりいただいて、いかにも立派そうに見えますが、いかげんな流派というのが直簫流です。最初は虚無僧の音楽をおもしろがって演奏していました。その後いろいろなことに関心を持ったり、追求していく中に非常におもしろい真理があるということが見えてきそうな気がしています。今一番おもしろがっているのは宇宙の無の世界、ダークエネルギーについてです。今その本を読んでいます、ものすごく難しく、何回読んでもさっぱり分かりませんが、虚空の向こうの世界と宇宙の無の世界は何か通じるような感じがしています。仏教的な、哲学的なものというのは、頭の中の世界、心の世界といえるのかもしれませんが、宇宙の無というのは物理学でほとんど証明されかけていて、現実にあるものらしいです。それらを結びつけられたらいいかなと思っています。先ほど演奏した打破の曲も、鶴の巢籠もり、虚空の曲も、どの曲もみんな一つの世界の中に含まれているような感じがしまして、そういうものをずっと掘り下げていくところに精神的なおもしろさと表現の多様性、深さがあるんじゃないかなあと思っています。

3. 尺八は【ぐらい】の中で作られる

E : 本日の聴衆はたいてい、エンジニアとか、サイエンスの関係の方になります。最近、文工融合という言葉が浜松キャンパスにありまして、もともと工として工学部があり、それに文として情報学部が加わりました。先生は文と工、両方ともに携わったという立場におられますので、文工融合についてお聞かせいただきたいと思います。

T . 工学的なものと精神的なものが一緒になったような感じ、そういうことですかね。まずは尺八の話をして。ここに水道管で作った尺八があります。尺八は筒に穴があいているだけの楽器です。吹き口のところに斜めに切り口があって、指穴が前に4つ、後ろに1つあるだけの構造です。

かなと思っておりましたが、ほんとうにそれだけで終わるのか、革新があるか、ものづくりの世界で期待できるのかどうか、疑問というか問題意識を持っていましたが、直簫流においては有りうるということです。

T:最初に、ダイキン工業をなぜ退社したかということですが、私は理科系を選んだのは非常につまらない理由で、数学の点数が良かったからだけです。それで自分は理科系に向いていると思っていたんですが、今気が付いてみると、全然理科系に向いておらなんだ、パソコンは使わないし、携帯も、メールもできないし、機械的なことはうちの奥さんにばかにされ、息子にもばかにされていますが、今は生き生きしています。どうもなんとなく、ぐらい、ぐらい、ぐらい、のいいかげんさがとても心地よくて、そういう自分の能力のないところでがんばってきたことが、澄み切ったこの世界に入ってきたエネルギーになっていてよかったかなあと感じております。ダイキンには5年間おりましたけれども、5年ではじけました。

それから尺八の工業化については、できなくはないと思いますが、水道管であれば、のことです。先ほどの演奏で、水道管か、竹か、多分真っ暗にしたらどっちでやっているか分からないと思います。自分でもひょっとしたら分からないくらいです。竹の尺八は作るのが非常に大変ですが、水道管の尺八は子供でも作れます。ですから工業化はできそうですけれど、本当の名機といわれるものは無理ではないかと思えます。非常に難しいバランスがあって、そのところは職人中の職人がわかる部分だと思えます。工業化されたものはどうなるかということ、買う人がいない、製品ができて在庫の山ということになるので、そういうばかなことにはがんばる人はいないだろうと思います。ですから工業化はまず難しいかなと思います。

5. 尺八とアンサンブル

E:先生の紹介の中に、海外でアンサンブルなさっているのがありますが、尺八のももとの世界からは異質なと言いますか、境界領域に入っていらっしゃった。そういうことでたぶん世界の方が非常に注目なされたかと思えます。異質の力が当たり前だとアンバランスになります

水道管で作ったものと竹で作ったもの、これはほんとうに同じ形をしています。尺八は、唇から出た息が吹き口のところの斜めの切り口がリードの代わりになって、管に空気が当たると鳴るという構造をしています。水道管の尺八をどうやって作るかと申しますと、吹き口のところをまず30度ぐらい斜めに切ります。その“ぐらい”というところがキーワードです。そして、吹き口の深さを5mmぐらい丸く削って、顎の当たる部分を5度ぐらいに削る。そして長さを竹の尺八に合わせてノコギリで切る。指穴も竹の尺八に合わせてドリルで空ける。穴の寸法は10mmです。これで出来上がるんです。尺八は非常に素朴な民族楽器の一つですが、作り方が非常にいいかげんで、ぐらい、ぐらい、ぐらい、としか言いません。こういういいかげんなものを使って出る音はいいかげんなはずなんです、とりあえず音を出してみます。

=== <演奏> =====
===

日本まんが昔話

=====

4. 理系の仕事から精神性の世界へ

M:どうもありがとうございました。ただ今の演奏から田嶋先生から2つのお答えをいただいたかと思えます。1つは、先生の経歴の中から、ダイキンから尺八に転身された背景についてです。もう一つは、尺八のような手作り楽器が工業製品化できるかどうかです。非工業製品、手作的なものというのは、文化的な要素をもち、人間が介在しないと成り立たないとか、機能しないとかということ、文化的な要素が強ければ強いほど、そういう性質のものになるのかと思えます。尺八はまさにそちらの世界のもの

が、そこにバランスを見つけられたと思いますので、その辺のところをお話していただければと思います。

T:最初に尺八をやった時は、尺八はこんなものだというイメージがありました。それは多分ほとんどの皆さんが共通して持っている印象だと思います。ちょっとポーっという音だとか、だいたい尺八で想像する人で善人はいません。なんか悪いことしそうな人が編笠をかぶって出てきます。そういうふうな独特なイメージがあり、私もそう思って、そのイメージで一生懸命やっていたんですが、いろんな方と競演する中でその考え方が少しずつ変わってきて、今はまったく真逆になっています。ひとつは虚無僧の世界があります。それから今演奏した日本まんが昔話のような童話の世界があります。それから、これからいろんな曲を演奏しようと思いますが、例えば、アヴェ・マリア、それからブラームスの子守唄、とりあえず先にそれらを演奏してから、私の考えていることとお話ししたいと思います。私の中に垣根は全くなくて、全部開かれた状態で、その音楽をする時に自分はその音楽の形になる、自分がその世界に移っていく形です。ですから、この曲をやるから私はこうやってとかそういうのではなくて、自然に空気の中でやっている感じです。

===== <演奏 (2曲)> =====
=
アヴェ・マリア／ブラームスの子守唄
=====

6. 演奏は、自分が感じたままに

M:どうもありがとうございました。今のよう
に身近な曲をアンサンブルで聞かせていただくと、非常に楽しい感じが致します。その楽しさの中にもさらに音楽性を追求していきバイオリンとチェロと尺八でアンサンブルをしたものが、いくつかの賞を受賞していますそれで今日はそれをご紹介していただきまして、楽しさの中に芸術的な深さもあるところを、例えば“鷺娘”の冒頭のあたりの演奏を交えて、紹介していただければと思います。

T:踊りとか長唄に“鷺娘”という曲があります。鷺が人間に恋をして、そして人間になつたらもう鷺には戻れないよというのを、かまわないということで変身して、そして最後に恋が破れて雪の中で死んでいくというドラマです。それを人形浄瑠璃と一緒にやることで、尺八とバイオリンとコントラバス、それぞれがスイスの演奏家が演奏するのですけれども、その方と一緒に世界ツアーをしようということで鷺娘という曲ができました。その冒頭の部分で、深深とした雪の中を鷺が娘になって白い綿帽子をかぶって歩いてくる、そういう情景のところをお聞きください。

=== <演奏> =====
===
鷺娘
=====

T:先ほどのアヴェ・マリアとブラームスの子守唄を同じ尺八で演奏しましたが、それぞれ全然違う雰囲気があります。私が演奏している、精神性というものの少し追加のつもりで話をします。イメージとしては自分がここにいて、例えばブラームスの子守唄とか、アヴェ・マリアとか、まあ何か曲があって、それを私が感じて、その感じたことに基づいて楽器を操作して、音に変えるという、そういうふうな考え方をしています。一般的には、音あるいは音楽に対して、自分がその音楽のイメージを持って、技術を磨いて、そして自分のエネルギー、思い、情念をもって、それから出発するという形になります。しかし、それをするとどうしても尺八でアヴェ・マリ

アをやっている、尺八でブラームスをやっていると、何か変な音楽になってしまいます。音楽からその力をもらって、すごいバランスいい精神世界があって、それが楽器を吹いていくということに変わっていく。私はここで操り人形のように、傀儡人間のようにいるだけというようにやっています。ですから、ブラームスの子守唄の時には、皆さんと同じようにああい音楽だなあ、すごいさびしげだとか、うれしいなあとか、かなしいなあとか、そんなふうなことを思いながら自分も聞いているような、そんな感覚でいます。

7. 学生へ 好奇心をもって実践を

E：今日は大学の先生が大勢いらして、私が何年前かに新幹線の中で工学部長と一緒に語った時に、どのようにしたら若い学生諸君に独創性のある考えを持つことができるかというお話がありました。これは非常に難しいお話なんですけど、今の先生のお話は大変独創的なお考えであると思うんです。今回の出席している人たちは、大半がエンジニアに属しているものでして、科学技術の進歩性、そういう思考回路といいますか、そういうものをたぶんとしています。先生はもともとそういうエンジニアとしての考えがあられたわけですけど、今は新しい価値観、無としての価値観、哲学としての価値観、ものを表現するという価値観、先生の場合は自己表現するという形で伝えられる、そういうものとエンジニアの思考過程とで、普遍的な共通性があるかどうか、全然違うということかどうか、これからわが国を背負っていく若い学生に接する機会の非常に多い大学の先生方に、何かご提言があれば一言お願いします。

T：非常に難しい質問ですね。ひとつは私が実感しているのは好奇心を持つことです。自分の歩いてきた道をずっと振り返ってみまして、最初は世間が持つ普通の常識の中にいたんですけども、いろいろなことに好奇心がもち、いろいろなものに出会ったりとか、いろいろなものを考えたりする中で、新しい自分の考え方が広がっていくような感じがします。好奇心をもつこと、それは音楽の世界だけではなくて、いろいろな世界に、ホースの世界もありますし、宗

教の世界もいろいろあるし、そういう世界の中で、実践したりしていることとつながる部分がたくさんあるのが発見されて、それによって自分の考えがすりかわって、そしてそれはすべてに普遍的につながるような感覚を今感じています。好奇心を持つこととおもしろいと思うことは、行動してみる、実践してみるということが大事ななと思っています。私の長所といいますか、武器は何かおもしろいことを思いつくとすぐ実践する、実践しながら行き詰ったり、軌道修正したりして、新たな展開がある。それからいろいろな人に出会ったりすることで広がっていると思います。

E：ありがとうございました。それでは司会の松山総務委員長の方にマイクを返します。

S：それでは本日もご出席の皆様にも折角の機会ですので、田嶋様にご質問、リクエスト等がございましたら、質問をしていただければと思います。

<参加者からの質疑応答>

山田氏 (41JM)：先ほどの水道管で作った尺八の演奏を聴いた感じではフルート音に非常に似ているなと思ったものですから、単純に考えてリコーダーは作れるのかなということを知りたいのが1点。もうひとつは先ほど演奏していただいた日本まんが昔話の曲が尺八とうまくマッチしていたものですから、尺八

による童謡のCDはどのくらい普及しているのかなというのをお聞きしたいと思います。

T: リコーダーと尺八は全然構造が違います。リコーダーは吹き口に息を入れれば息の流れが機械的に出来て音が出ます。ですから個人的な差というのは非常に出にくくて、コントロールが非常に制約されます。尺八は、楽器の作りも、吹き方も、指の開け方も、穴のコントロールも、ほとんどぐらぐら、だらだらなんです。そういうぐらぐらしたものを1つ条件をポンと決めると、その音が非常にレベル高く決まる、洋楽器よりも音程は良いくらい正確にできます。洋楽器の場合、例えばフルートの場合だと音程が正確に機械的にできますが、音程が悪い楽器です。機械的に指を組み合わせてやるんですが、その近辺の音しか出なくて、そして音の調整がなかなか難しく、よく聞いていると非常に音程が悪く、尺八の方がはるかに音程はいいなあと思います。尺八の場合は、ちょっと高いから下げたいなあと思ったらすぐ下がります。それくらい自由度が高いのでしょっちゅう勘違いするんですよ。ちょっと高かったとやると低すぎたりとか、自分自身の勘違いとか、耳の悪さみたいなのが全部そこにでますので、やたらにやっかいな楽器です。自由度が高くて、レベルの高い人にとってはこれほど良い楽器はないんですが、それができない人にとってはとても面倒くさい、やりにくい楽器だということ、リコーダーと似てるけれども違うところです。

それから童謡だけのCDは作ってなくて、私のCDの曲の順序は支離滅裂です。美空ひばりがあったり、ビートルズがあったり、民謡があったり、童謡があったり、ポップスがあったり、何でもあるんです。それがでたらめにならんでいるのが私の考えで、わざとでたらめにしているのです。あんまりジャンルをきめているとおもしろくない。いろいろとバラエティに富んでいるほうが、意外性があって、尺八でこんなのやるのというふうな意外性を大事にしているものですから、あえて支離滅裂にならべています。

柴田氏 (31M) : バイオリンとか、ピアノとか、

いろいろ名品がありますけれど、尺八には名品というのはあるんですか。先ほど先生が尺八は水道管でもできると言ったんですが、やはり微妙な音が出ないのではないかと、昔作った尺八の名品があるかどうかちょっとお聞きかせ下さい。

T: 昔は虚無僧が竹やぶから適当に竹を切ってきて、ふしを抜いて吹いたものです。それでだめだったらどンドン切って、何千本も何万本も切って、自分に合うものを選んでいくんですが、その中に偶然いいものがあります。そういうものが名機としてずっと伝わってきて、それをモデルにして外寸を図ってコピー商品を作るのですが、ほとんど職人の手作業になるものですから、そこに非常に狂いとかバランスの悪さが出てきます。今日いろいろな曲を演奏させていただいたんですが、昔は虚無僧の音楽を3曲から5曲くらい吹いていたので、虚無僧の曲が吹けるような尺八であればよかったです。けれども、今は洋楽もやるし、童謡もやるし、何でもできないといけないということになると、そういう尺八では対応できなくて、非常に平均化された、バランスのいい物が出てきます。そうすると本来持つ、その味わいとか、微妙な感覚、感じがどんどん無くなっていきます。人間も非常に優等生でなんでもこなせる人と非常にひねくれもので面倒くさいのだけれども、あることをやらせると非常におもしろいとか、すごいことをやるという人がいます。尺八も優等生的なものでないと今はもう買えないですし、最近の楽器はあんまりおもしろくなくなってきています。昔のいい尺八を使うと、できない、カバーできないジャンルが出てきてしまう。そういうことがあって、名機をどういうところで使うかという難しいところがあります。

(参加者) : 先生は今尺八をポンと机の上に置いてしますので、湿度とか、温度とかをあまり気にされていないように思えますが、そういうものでしょうか。

T: 尺八は非常に丈夫な楽器です。私はいつも尺八をビニールの袋に入れて、カバンに放り込んで持っていきます。海外にいく時でも

スーツケースにほうりこんで、飛行機の貨物室で運んでいきます。ただ、吹き口が私に合わせた切り口になっていますので、ここが欠けると困るものですから、そこだけはカバーして、後はほったらかしでもかまわない。ただ急激な乾燥があると竹が割れますので、それだけは気をつけています。自分の体調とか、いろいろなものを非常に気にされる方が多いですが、そんなのは誤差のうち、なんもかんも誤差のうちというような、まあこのぐらい、全部ぐらいみたいなところで総合的に出てきたものがこういう音楽になるという考え方をしているのです。ただ、温度に対しては周波数が変わりますので、20℃で 442Hzになるように調律しています。けれども、ちょっと高かったら、ちょっと啞えれば良いので、非常にデリケートなことをいいながら、やたらにいいかげんなことをやっています。

以上

田嶋先生の Home Page

【田嶋直士 尺八の世界】

<http://homepage2.nifty.com/tajima-tadashi/>